

## 30年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成30年 9月1日～ 30年9月10日

## 2. 調査実施方法

全国の木材チップ工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
9月分の回答企業数は11社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## (1) チップ用国産原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
入荷動向	スギ・ヒノキ	△ 38.9	△ 22.2	△ 16.7
	マツ	△ 45.0	△ 40.0	△ 40.0
	広葉樹	△ 31.8	△ 36.4	△ 31.8
消費動向	スギ・ヒノキ	△ 12.5	△ 6.3	0.0
	マツ	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 10.0	△ 15.0	△ 10.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 44.4	△ 33.3	△ 22.2
	マツ	△ 30.0	△ 30.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 31.8	△ 31.8	△ 27.3

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも原木の入荷動向は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキの消費動向は9月、10月の減少から11月は横ばいに。マツ、広葉樹は3カ月連続減少。

・スギ・ヒノキ、マツ、広葉樹とも原木の在庫動向は3カ月連続減少。

## (2) チップ用国産原木購入価格動向 Weight. D. I.

品目	30/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ	12.5	12.5	6.3
マツ類	5.6	5.6	5.6
広葉樹	10.0	5.0	5.0

・スギ・ヒノキは東北を中心にやや強含み。  
・マツ類、広葉樹とも保合。

## モニターからのコメント

## (原木荷動き)

・北海道胆振東部地震の発生に伴い林道等が被災したことから、木材の搬出ができない状況。このため仕入はマツ類、広葉樹とも減少（北海道）。  
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも全体的に入荷量減少傾向。在庫はスギ1.5→1.0カ月、マツ類0.2→0.3カ月、広葉樹1.0→0.8カ月（東北）。  
・針葉樹原木の仕入は、木質バイオマス発電に流れているため困難な状況が続いている。広葉樹原木は、メガソーラー発電関連の伐採がありやや増加（関東）。  
・7月の豪雨の影響にてスギ・ヒノキの原木入荷が落ち込み、入荷・消費・在庫とも当月は減少見通し。翌月回復見通しでやや減少、翌々月は横ばいの見通し（四国）。  
・仕入動向は、全樹種順調に入荷すると予想。消費は、製紙用は針葉樹・広葉樹ともにできるだけ多くの出荷要請がある。バイオマス発電用は変わらず。原木入荷量と出荷量はほぼ同量なので在庫はあまり変わらない。スギ・ヒノキの製紙用は減少しており、バイオマス発電用はやや増加気味（九州）。  
・広葉樹原木の仕入は困難な状態が続いている。このため消費・在庫とも少ない状態が続いている（九州）。

## (原木価格)

・木質バイオマス発電事業との関係から、スギ材がやや上昇（東北）。  
・スギ・ヒノキ、マツ類とも原木価格は上昇気味（東北）。  
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともに価格変動なし（中国）。  
・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹ともに原木価格に変化はない（九州）。  
・スギ・ヒノキ、マツの原木は基本購入していない。広葉樹は横ばいで推移（九州）。

## 30年9月分 木材チップの荷動き・価格先行き動向調査 2

## 4. 調査結果の概要

## (1) 木材チップの荷動き動向 Weight. D. I.

品目		30/9月	10月	11月
生産動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	0.0	6.3
	マツ類	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 20.0	△ 20.0	△ 15.0
出荷動向	スギ・ヒノキ	△ 6.3	0.0	6.3
	マツ類	△ 16.7	△ 16.7	△ 16.7
	広葉樹	△ 20.0	△ 20.0	△ 15.0
在庫動向	スギ・ヒノキ	△ 28.6	△ 21.4	△ 14.3
	マツ類	△ 25.0	△ 25.0	△ 25.0
	広葉樹	△ 27.8	△ 27.8	△ 22.2

・木材チップの生産動向は、スギ・ヒノキは9月の減少から10月は横ばい、11月は増加少に。マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

・出荷動向はスギ・ヒノキは9月の減少から10月は横ばい、11月は増加に。マツ類、広葉樹は3カ月連続減少。

・在庫動向はスギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも3カ月連続減少。

## (2) 木材チップ出荷価格動向(自社サイロ下渡し)W

品目	30/9月	10月	11月
スギ・ヒノキ類	0.0	6.3	0.0
マツ類	0.0	0.0	0.0
広葉樹	5.0	0.0	0.0

・木材チップの出荷価格動向は動向はスギ・ヒノキ類、マツ類、広葉樹とも横ばい。

## モニターからのコメント

## (木材チップ荷動き)

- ・マツ類など針葉樹原木の入荷減のため、生産動向はやや減少（東北）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類は入荷量減少に伴い出荷量も減少（東北）。
- ・出荷動向は製紙会社から増量の要請がある（関東）。
- ・スギ・ヒノキ原木入荷の影響で生産、出荷、在庫動向とも当月減少、翌月やや減少、翌々月横ばい見通し。製紙、ボード、燃料用とも出荷抑制はない（四国）。
- ・素材生産事業者、弊社の手山とも針葉樹現場のため広葉樹の入荷が減少する傾向にあるため、消費・在庫ともにやや減少すると予測（中国）。
- ・生産・消費ともに、製紙用は針葉樹・広葉樹とも計画通り生産能力フル稼働の状況。チップの在庫は持っていない（九州）。

## (木材チップ価格)

- ・製紙会社に値上げ要請はしているが、回答なし（関東）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも価格変動なし（中国）。
- ・スギ・ヒノキ、マツ類、広葉樹とも出荷価格に変化はない（九州）。
- ・広葉樹チップ価格は横ばいに推移（九州）。